

《 乳児期のワクチン接種後の注意事項 2024 》

- 接種後15～30分は院内にいてください。不活化ワクチンに特有のアレルギー反応が出る場合があります。蕁麻疹やアナフィラキシーショックなどです。ここに記す3種類は不活化ワクチンです。
- 今日は、激しい運動を避けてください。接種後の入浴は構いません。
- 明日は、熱もなく体調さえ良ければ、運動や入浴など普段と同じ生活で結構です。
- 4～8週間隔で次の接種を計画します。他のワクチンは1週間すれば可能です。
- HibとPCVとDPT-IPVは同時接種がお勧めです。海外でも同時接種ですし日本でも推奨されています。副反応も特に心配はありません。同時に接種することで子どもさんへ負担と家族の負担を軽減できます。これら3種類とB型肝炎やロタワクチンも同時にできます。

【ヘモフィルスインフルエンザ-b《Hib:ヒブ》ワクチン】 《 左・右 / 腕・太もも 》 (次回の予定: 月 日頃、1ヶ月後、7か月以上で1歳過ぎ)

- ① 2日以内に接種部位が赤く腫れて(約45%)、微熱(約2～3%)や不機嫌(約15%)などの見られることがあります。2～3日で消失しますので心配はありません。
接種回数に関係なく、腫れ方も1cm以下のため目立たず、ほとんど副反応を感じません。
- ② できるだけ早期に接種し始めることが大切です。太ももへの接種を推奨します。
通常は生後2カ月から6カ月(7カ月未満)までに始めます。4～8週間隔で3回と、その7か月～13か月後を目途に1歳過ぎに4回目を追加接種します。4種混合と同時接種を推奨。
生後7カ月以上1歳未満では4～8週間隔で2回、7か月～13か月後に3回目を接種します。
1歳以上～4歳(5歳未満)までは1回のみです。5歳以上では接種しません。
- ③ ワクチンの目的は、この菌による細菌性髄膜炎や敗血症など重篤な症状を予防することです。この細菌性髄膜炎は53%が0歳児に、70%以上が1歳までに発病します。9～10カ月が最も多く5歳以上ではまれです。生後6か月までには始めることが大切です。

【小児用15価肺炎球菌《PCV15:パクニューバンス》ワクチン】 《 左・右 / 腕・太もも 》 (次回の予定: 月 日頃、1ヶ月後、60日以上で1歳過ぎ)

- ① 当日に38～39℃程度の発熱(約10～20%、3回目・4回目は30%)や不機嫌(約15%)などがありますが、半日程度で治まりますので心配ありません。
2日以内に接種部位が赤く腫れます(約20%)が、3～4日で消失しますので心配はありません。稀に残る「しこり」についてはDPTの項参照ください。
- ② できるだけ早期に接種し始めることが大切です。太ももへの接種を推奨します。
通常は生後2カ月から6カ月(7カ月未満)までに始めます。4週間～8週間隔で3回、60日以上(2～3か月程度)あけて、且つ1歳以降に1回追加の4回接種します。
生後7カ月以上1歳未満では4～8週間隔で2回、60日以上(2～3か月)あけて1歳過ぎに1回の3回接種します。1歳代は60日以上(2～3か月)あけて2回接種します。
2歳以上5歳まで(6歳未満)は1回のみです。6歳以上では64歳までは接種できません。
- ③ ワクチンの目的は、この菌による細菌性髄膜炎や敗血症など重篤な症状を予防することです。乳幼児の細菌性髄膜炎の約20%はこのワクチンに含まれる肺炎球菌で起こります。ワクチンに含まれる13種類の肺炎球菌が原因の肺炎と中耳炎にも効果が期待できます。生後6か月までには始めることが大切です。65歳以上の年配者にも認可され推奨されています。
- ④ 7価(PCV7)で4回済んだ人も、13価で1回の追加を奨めています。任意接種です。

【DPT-IPV/Hib 5種混合ワクチン[ジフテリア、百日咳、破傷風、不活化ポリオ、Hib]】

【DPT-IPV 四種混合ワクチン[ジフテリア、百日咳、破傷風、不活化ポリオ]】

【DPT 三種混合ワクチン[ジフテリア、百日咳、破傷風]】 《 左・右 / 腕・太もも 》 (次回の予定: 月 日頃、1ヶ月後、1年後)

- ① 接種後2日以内に、稀に(3%程度)38℃程度の熱が出ることがあります。
- ② 初回接種時は5～7日後に約20%の人で、2・3回目では2～3日後に約25～30%の人で、4回目の追加接種では2日以内に約30～40%の人で、接種部位が直径5cm程度に赤く腫れることがあります。腫れは3～4日でひきますので心配はありません。ひどければ冷湿布するか翌日に受診してください。接種回数が増えるにつれて腫れ易くなりますので注意ください。極稀に接種部位の皮下に小さな「しこり」が残ることがありますが、1～2カ月程で自然に消えていきます。後遺症が残ることはありません。
- ③ 1・2回では効果がありません。一期として約4週間[3～8週間]の間隔で3回、さらに1年から1年半後(少なくとも6か月以上あける)に1回の追加を忘れないでください。
この追加接種が大切です。3種混合は6か月以上でも良いですが、4種混合での追加は1年程度あけましょう。IPVの追加は約1年間あけると効果的です。IMOVAX-POLIOと同じです。やり直し接種の難しいワクチンですので、不規則な接種の時はご相談ください。
- ④ 二期は小学校6年頃(11・12歳)で接種します。この時は、DPT三種混合ではなく、ジフテリアと破傷風のDT二種混合で接種していますが、青年期の百日咳対策として早晚DPTでの追加が始まることになっています。二期は約30%に、その晩か翌日に接種部位が腫れることがあります。手当や注意事項は同じです。成人では10年毎にDPTで追加しましょう。
- ⑤ 不活化ポリオワクチンについては特に副反応もありませんが、回数と間隔に注意ください。ビケン製とKMb製の4混に含まれるIPVとHibは国産です。